

平成26年度「全国学力・学習状況調査」における春日井市全体の結果について

春日井市教育委員会

1 小学校6年生

ア 教科の状況

○状況をみるにあたって

- ・ 教科別・区分別に次の3段階で示す。
「たいへんよくできている」: 正答率8割以上
「おおむねできている」: 正答率5割以上8割未満
「努力を要する状況である」: 正答率5割未満
- ・ それぞれの教科で、よくできている内容(○: 正答率7割以上)と努力を要する内容(△: 正答率5割未満)の一部を紹介する。

○教科別・区分別状況

	主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
国語	おおむねできている<正答率約7割>	おおむねできている<正答率約5割>
	○漢字を正しく読む。 ○文や文章の構成を理解し、適切な表現にして書く。 △故事成語の意味と使い方を理解する。	○詩を読み比べ、表現の工夫をとらえる。 ○課題を解決するために、目次や索引を利用して本を効果的に読む。 △分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらに関係付けながら、まとめて書く。
算数	主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
	おおむねできている<正答率約8割>	おおむねできている<正答率約6割>
	○整数、小数、分数の四則計算をする。 ○円周の長さを直径の長さをういて求める。 △作図に用いられている図形の約束や性質を理解する。	○計算の結果の見通しをもち、乗法の筆算をする。 ○繰り返し出現する事象から、規則性を読み取る。 △示された情報を基に、必要な量と残りの量の大小を判断し、その理由を言葉と数を用いて記述する。

イ 学習・生活習慣等の状況

○状況をみるにあたって

- ・ 学習、生活習慣等の状況調査を「基本的生活習慣」「学校、家庭での居場所」「自己肯定感」「規範意識」「家庭学習」の観点から分析した本市の全体傾向は、国や県と同様の傾向を示している。その中で「全体傾向」については、肯定的な回答の割合が8割以上見られる内容を紹介する。また「国との比較」では肯定的な回答の割合が高い項目(○: 国平均より3ポイント以上高い)、低い項目(△: 国平均より3ポイント以上低い)の代表的なものを紹介する。

全体の傾向	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎日朝食をとる、決まった時間に起床するなど基本的な生活習慣を身に付けている。 ・ 夢や目標をもって生活している。学校での出来事を家の人と話をする。 ・ 学校が楽しく、友達の話をよく聞いたり、約束を守ったりするなど、友達を大切にしている。 ・ 物事を最後までやり遂げたり、協力して何かをやり遂げたりしてうれしいと感じたことがある。 ・ 大多数が規則を守って生活しており、「人の気持ちが分かる」「人の役に立ちたい」「いじめはいけな」と思っている。 ・ 家で学校の宿題をしている。 ・ テレビやインターネットのニュースを見る。 	
国との比較	
○自分にはよいところがある。	△テレビ・DVDの視聴やゲームをする。
○学校に行くのは楽しい。	△家庭学習をする。自分で計画を立てて勉強する。
○家の人が授業参観や運動会などの学校行事に来る。	△先生によいところを認められている。
○新聞を読んでいる。	△家で学校の授業の復習をしている。

ウ 今後の取り組み

国 語	算 数
<ul style="list-style-type: none"> 先人の知識や教訓、機知に触れ、故事成語に興味や関心を持たせながら意味や使い方を理解させ、故事成語を取り入れて日記や物語などを書く機会を設け、その使い方の適否を指導し習得させる。 記述に関することについて、事実と感想、意見などを整理し、それらの関係付けの仕方を習得させ、条件に応じてまとまった文章を書かせる活動を行いながら、目的や意図にあった文章を書けるようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な図形の約束や性質を理解させ、その作図においては手順を形式的に指導するだけでなく、作図の手順と図形の約束や性質を対応付けてとらえ、習得させる。 文章題において、問題に解決に必要な情報の整理や選択の仕方を習得し、根拠となる事実を関係付けながら、理由を的確に説明する活動を行うことにより、様々な文章題において活用できるようにさせる。

エ その他

- この調査の結果は、学力の特定の一部である。

[この調査の詳細は、「平成26年度全国学力・学習状況調査 報告書・調査結果資料」のホームページ\(国立教育政策研究所ウェブサイト\)より確認できる。](http://www.nier.go.jp/14chousakekkahoukoku/index.html)

<http://www.nier.go.jp/14chousakekkahoukoku/index.html>

2 中学校3年生

ア 教科の状況

○状況をみるにあたって

- 教科別・区分別に次の3段階で示す。
「たいへんよくできている」: 正答率8割以上
「おおむねできている」: 正答率5割以上8割未満
「努力を要する状況である」: 正答率5割未満
- それぞれの教科で、よくできている内容(○: 正答率7割以上)と努力を要する内容(△: 正答率5割未満)の一部を紹介する。

○教科別・区分別状況

	主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
国語	おおむねできている< 正答率約8割 > ○文脈に合わせて漢字を正しく読む。 ○語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う。 ○集めた材料を分類するなどして整理する。 △目的に沿って話し合い、互いの発言を検討する。	おおむねできている< 正答率約5割 > ○表現の技法について理解する。 ○複数の資料から必要な情報を読み取る。 △資料から適切な情報を得て、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書く。
	おおむねできている< 正答率約7割 > ○四則計算、文字式の計算をする。 ○絶対値、正負の数の意味を理解する。 ○線対称の図形や、面を平行移動してできる柱体について考える。 △相対度数・関数の変化の割合・内角の和を求める式の意味を理解する。	おおむねできている< 正答率約6割 > ○表やグラフから必要な情報を適切に読み取る。 ○空間における位置に関する情報を適切に読み取る。 △図形の性質を構想を立てて証明し、証明の過程で見出した事柄や証明された事柄を用いて図形を考える。

イ 学習・生活習慣等の状況

○状況をみるにあたって

- 学習、生活習慣等の状況調査を「基本的な生活習慣」「学校、家庭での居場所」「自己肯定感」「規範意識」の観点から分析した本市の全体傾向は、国や県と同様の傾向を示している。その中で「全体傾向」については、肯定的な回答の割合が8割以上見られる内容を紹介する。また「国との比較」では肯定的な回答の割合が高い項目(○: 国平均より3ポイント以上高い)、低い項目(△: 国平均より3ポイント以上低い)の代表的なものを紹介する。

全体の傾向

- ・毎日朝食をとる、決まった時間に起床するなど基本的な生活習慣を身に付けている。
- ・学校が楽しく、友達の話をよく聞いたり、約束を守ったりするなど、友達を大切にしている。
- ・物事を最後までやり遂げたり、協力して何かをやり遂げたりしてうれしいと感じたことがある。
- ・大多数が規則を守って生活しており、「人の気持ちが分かる」「人の役に立ちたい」「いじめはいけない」と思っている。
- ・家で学校の宿題をしている。
- ・テレビやインターネットのニュースを見る。

国との比較

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| ○家の人と学校での出来事について話をする。 | △学校や地域の図書館を利用する。 |
| ○新聞を読んでいる。 | △自分が住んでいる地域の行事に参加する。 |
| ○学校の規則を守る。 | △家で学校の授業の復習をする。 |
| ○家で学校の宿題をしている。予習をする。 | |

ウ 今後の取り組み

国 語	数 学
<ul style="list-style-type: none">・話し合いにおいて、目的に応じて発言を整理したり、議論を焦点化する方法を理解させ、共通点や相違点などの観点にそって話し合うことにより、目的にあった結論を導く方法を習得させる。・資料から得た情報を利用して、伝えたい事柄を明確にして書くために、目的に応じて取り上げる内容や示す順番を選択する方法を習得させ、自分の考えを書く際にそのことを活用させながら、適切に表現できるようにさせる。	<ul style="list-style-type: none">・図形の性質や相対度数、関数の変化の割合などの理解のために、式を導いたり、資料を読み取ったりする活動を取り入れた学習をすすめ、習得をさせる。・図形の証明において、結論を導くために条件を整理したり、着目すべき性質や関係を見い出したりして確実に証明できるようにし、その活用として、証明したものを使って新たな事柄を見つけることができるようにさせる。

エ その他

- ・この調査の結果は、学力の特定の一部である。

・この調査の詳細は、「平成26年度全国学力・学習状況調査 調査結果について」のホームページ(国立教育政策研究所ウェブサイト)より確認できる。

<http://www.nier.go.jp/14chousakekkahoukoku/index.html>